

第4回旭川内山下構造検討委員会 議事要旨

【日時及び場所】

日 時 : 令和2年11月24日(火) 14:00~16:00
場 所 : 岡山河川事務所 会議室

【出席委員・オブザーバー】(敬称略、50音順)

委員長 : 前野 詩朗(岡山大学大学院 環境生命科学研究科 名誉教授)
委員 : 稲田 孝司(岡山大学 名誉教授)
田中 哲雄(日本城郭センター 名誉館長)
オブザーバー : 河合 忍(岡山県教育庁 文化財課長(代理))
高橋 伸二(岡山市教育委員会 文化財課長(代理))
灰佐 勇祐(岡山県 河川課長(代理))

【議事概要】

事務局より(1)堤防断面・堤防法線の設定、(2)景観検討、(3)今後のスケジュールについて説明

・以下の整備方針を確認した。

- ① 堤防整備(堤防法線前出し)による影響について、詳細な流況解析による整備前後の水位・流速変動結果を踏まえ、河川整備基本方針で想定した規模の洪水に対して安全性は保たれていることを確認した。
- ② 基本的な堤防断面・堤防法線については、事務局(案)で了解する。なお、上下流の堤防整備の取り付け形状については、文化財及び既存施設の保護方法など関係機関と協議・確認し決定する。
- ③ 堤防整備に伴う雨水等排水処理については、堤脚水路の流末処理方法は周辺の排水計画も含め再度確認する。また、護岸に配置される排水管は表面修景に配慮する。
- ④ 護岸前面に配置する自然石の積み方について、各委員から模倣性や景観面等から意見が出された。事務局(案)パターンをベースに現地付近に実際の石材を使用した試験積みを製作設置し、次回委員会にて確認・最終決定する。
- ⑤ 既存の石積みなどの歴史的施設の記録と新たに整備する堤防護岸のこれまでの検討を含めた整備概要などについては、当該地区の重要な情報であることから、一般の方などへ紹介または後世へ積極的に伝えるための手法・整備について検討する。
- ⑥ 付帯施設の諸構造については、次回委員会にて最終決定する。
- ⑦ 次回委員会において、埋蔵文化財調査結果の概要報告と現地視察を行う。
- ⑧ 三次元測量結果をもとに護岸状況の変化(はらみ出し等)を確認する。

以上